



01



02



03



04



05



06

01/龍飛崎周辺の小さな漁村では、カラフルでかわいいトタンの海小屋が多く見られる。02/マルチアスリート田中哲也さんに先導してもらって自然にスピードが出る。小さな集落を走りつなく。03/2016年に竣工された北海道新幹線奥津軽いまべつ駅によって、津軽半島へのアクセスが良くなりました。04/歩行者専用の階段国道。自転車は抱えて上ることになる。観光客が声をかけて応援してくれる。05/風力発電のために使われた風車の羽根を利用した町の看板。「風の岬へようこそ」という龍飛までの道。06/龍が飛ぶほどの強風が吹くといわれる龍飛崎の先っぽへ。美しい岸壁と、紺碧の海が交錯する場所。

コース5 奥津軽

走行距離:約73km 所要時間:約5時間

Clear Northern Day Ride

津軽半島の先端へ、津軽海峡と陸奥湾を望むロングライド

5

- A** 龍飛岬観光案内所 龍飛館
東津軽郡外ヶ浜町字三蔵龍浜59-12
TEL:0174-31-8025
- B** 道の駅たいらだて
東津軽郡外ヶ浜町字平館太郎右エ門沢1-3
TEL:0174-31-2211



18

北海道新幹線の開業によって、「津軽今別駅」から名称が変わった「奥津軽いまべつ駅」。この駅からスタートし、津軽半島の先を目指す道は、マルチアスリートの田中哲也さんがアテンド役。田中さんはパラリンピックの日本代表選手として活躍した片足のサイクリストだ。

海沿いを北上し、カラフルなトタンの小屋とコロコロ転がっている浮き球を横目に進む。かつて、太宰治が泊まったこともあるという旧奥谷旅館は、現在、龍飛岬観光案内所となっていた。「哲也さん！また自転車で来たあ？」と人気者の田中さん。旅館

時代の写真などが展示してあったが、当時はここに自転車で行って気持ちいい道ができるなんて想像もしなかったことだろう。

歩行者専用の階段国道339号線が現れ、そこを上り切ったら、太宰の小説『津軽』のなかで「本州の袋小路」と表現された龍飛崎だ。龍が飛ぶほどに風が強いという意味らしい。断崖から眺める津軽海峡は恐ろしいほど美しい。哲也さんに奥津軽の魅力を探ると「やっぱり海！」との答え。帰路は、松前街道を走ってゴール地点の蟹田駅まで約73km。走り応えのある奥津軽ロングライドだった。

18